

書評

リハセラピストのためのやさしい 経営学(マネジメント)

八木麻衣子, 岩崎裕子, 亀川雅人(編集)

A5判・222頁

定価: 本体2,300円+税

南江堂刊, 2020年

リハマネージャーが行き詰まったとき に読みたい実践書

[評者] 千葉一雄 大阪府理学療法士会生涯学習センター



マネジャー業務の1つに職場改善の取り組みがある。マネジャーはリハビリテーション分野で働くスタッフの勤務負担を軽減し、やりがいのある職場にしたい。一方、患者からは質の高い医療を提供してほしいと期待され、経営者からはコストの適正化と経営の質を高める組織目的の実現を求められる。リハスタッフ、患者、経営者の三者にとってwin-win-winの関係をバランスよく高める職場環境にするには、「何を」「どこまで」考え、スタッフの協力をどのように得て運営するのか、課題が複雑で悩みが多い。マネジメントに関係する書籍はビジネス系の一般書が多く、リハ部門運営の舵取りに直接的に当てはまらないと感じていた。

そこに本書は、リハ施設で比較的多い職員の“あるある”問題を「こんな場面に経営学」の項にトップバッターとして登場させ、読者の共感に訴え、本書の魅力をアピールしている。馴染みの薄い経営学理論を、職場にある「問題解決」のプロセスに落とし込み、解

決するための実践方法のヒントが満載されている。

本書を薦めるポイントを以下に列挙する。

- ① 経営学理論に基づき実践書として書き起こされたものであり、初めてのマネジャーからトップマネジメントまでの指南書となる。
- ② 本書内の「この本の使い方」の項は、実践に失敗しないようにする最大のポイントの「出口戦略」として捉えることができる。
- ③ 目次の大・中の見出しは、実に理解を高める戦略となっている。
- ④ キーワード集は語句の解説文だけでなく、深掘りされた説明が視野を広げている。

①は、本書が編集・執筆の八木麻衣子氏、岩崎裕子氏らが経営学博士を取得し、マネジャーとして実践されたさまざまな問題をコメディカル組織運営研究会メンバーとともに事例検討を研鑽された実践書であることを示している。さらに②は、成果を上げたい「使い方」のレシピがまとめられ、読者が

グループワークやディスカッションに失敗しないように出口戦略に導くものであること。③は、各項の見出しが単なる補足でなく、将来の方向性を意識させる意図的な「動詞」にして読書に働きかけていること。④は語句の説明に加え、深掘りされた内容とエッセンスをコラムとして散りばめ、さらに専門的に学ぶための手がかりなど視野を広げて書かれていることを示している。

このたびの指定規則改正により、追加科目として「理学療法管理理学」が必修化された。学生とともにマネジメント理論を学ぶメリットは大きい。プロフェッショナルになる「心構え」も必要である。本書は経営理論の学び方だけでなく「心構え」の大事さを説き、心に響く渾身の書である。スーパーバイザーを初めて経験されるセラピスト、初めてのマネジャーを対象に向けた内容ではあるが、組織マネジメントを発揮するすべてのセラピストにとって最善の入門書として推薦する。